

プロポリス

γ・CD包接で抗腫瘍作用を向上

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、NOC Food 7147)は、ニュージーランド産プロポリスをγ-シクロデキストリンで包接することで有効成分であるコーヒー酸フェネチル(CAPE)を安定

化し、抗腫瘍作用を向上させることを産業技術総合研究所との共同研究で確認。学会発表と学術論文発表をしている。

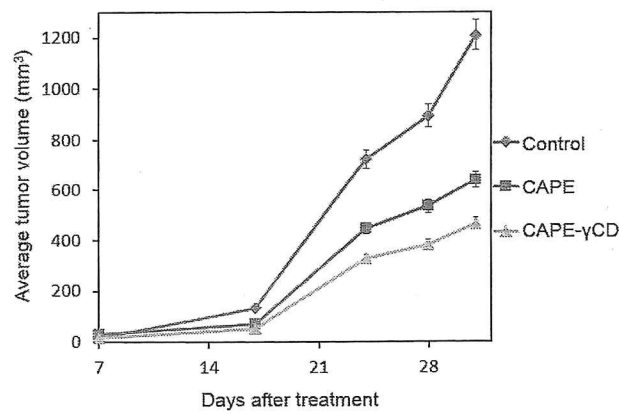
β-シクル産クリーンプロポリスの有効成分はフラボノイドやアルテピリ

ンCなどが知られているが、NZ産のプロポリスは免疫賦活・抗腫瘍作用を持つCAPEを特徴的に含有しており、これまでの研究では難病である神経線維腫への有効性などが報告されてきた。

一方で、CAPEは熱や酸などに弱く、経口摂取をしても低吸収であり十分な機能性を発揮しにくいという難点もあった。

そこで、同社ではγ-シクロデキストリンでプロポリスを包接したところ、

関連会社のコサナでは、同処方でのキャンディーや歯みがき粉などを販売しており、風邪やインフルエンザが流行する季節から、これに向けて販売を強化していただく。



る、CAPEの熱や酸に対する安定性が格段に向上することを確認。水溶性の向上やプロポリス特有の辛味も抑制し、機能性を最大限に引き出すとともに、飲みやすさや加工適性を高めることにも成功した。

がん細胞移植マウスを用いた試験では、CAPE単体で摂取するよりもγ-シクロデキストリンで包接した方がより高い抗腫瘍作用を発揮することも明らかにしている(データ参照)。

同社では、プロポリスと同じく優れた免疫強化作用・腸内環境改善作用で注目されるNZ産マカハニーおよびα-オリゴ糖(α-シクロデキストリン)を併用することで、より機能性を強化した処方での提案にも力を入れる。